

インタビュー

研究開発から製造装置向けまで幅広い用途の高性能コンピュータの開発および製造を行うHPCシステムズ(株)(東京都港区)は、高い品質と供給安定性を追求し、国内の幅広い業界に向けて製品を展開している。今回、製造現場向けコンピュータを取り扱うCTO事業部の取り組みについて、同社の執行役員でCTO事業部 事業部長の大竹直樹氏と執行役員 CTO事業部 営業統括の新井一善氏に話を伺った。

——各事業部の紹介から。
新井 製造業、検査装置、次世代通信やエッジAIなどの用途に注力する。なかでも製造現場向けのエッジAI向けが伸長している。画像処理機能に特化しているため、特に半導体やデバイス用の検査装置向けが多くを占める。具体的には、特に高い計算力が求められる用途や処理性能の高さが求められる半導体ウエハーやセンサー、電池などの検査装置向けが多く、またADAS関連の需要もある。

——高い処理能力に特化している理由は。
新井 近年、産業用PCの役割は、コントローラ

業部で開発する製品は主に推論用途で、生産現場向けの開発を行う。寸法やスペックなどをカスタマイズで対応する点特徴だ。両事業での連携にも力を入れており、例としてデジタルツインの実現などが可能だ。

——注力市場は。

新井 製造業、検査装置、次世代通信やエッジAIなどの用途に注力する。なかでも製造現場向けのエッジAI向けが伸長している。画像処理機能に特化しているため、特に半導体やデバイス用の検査装置向けが多くを占める。具体的には、特に高い計算力が求められる用途や処理性能の高さが求められる半導体ウエハーやセンサー、電池などの検査装置向けが多く、またADAS関連の需要もある。

——高い処理能力に特化している理由は。
新井 近年、産業用PCの役割は、コントローラ

HPCシステムズ(株)
執行役員 CTO事業部 事業部長

大竹 直樹 氏

CTO事業部 営業統括

新井 一善 氏



高性能な産業用PCを展開 長期供給性やサービスが強み

のみならず多くの情報が集まる装置の生命線になりつつある。従来は不具合がすべて検証された古い部品を使って作られていたが性能面で劣る。しかし今求められるものは高性能かつ堅牢な産業用PCだ。特に半導体業界向けでは非常に重視される。当社はカスタマイズに強みがあり、ハイエンド品の生産が可能だ。エヌビディアのパートナー企業として認定も受けており、最先端のGPU搭載によるAIの高性能化にも対応する。

——供給安定性への取り組みについて。

新井 産業用PCは、長期間の使用や装置の販売計画などの点から堅牢性と長期供給性が求められる。当社は顧客、仕入先と部材供給情報を密に連携し、これを実現している。各製品の生産終了情報の素早い入手に加え、GPUなど情報入手が難しい部品や、直近で供給が不安定なメモリーなど変更の可能性があるものは、現行部品で生産しつつ、代替部品によるマイナーチェンジに向けた開発や評価を同時進行で行う。マイナーチェンジを繰り返すことで同じ製品を長く供給できる仕組みだ。顧客にとって便利な企業であることをコンセプトとしている。

——カスタマイズの詳細を。

大竹 部品のカスタマイ

新井氏(左)と大竹氏

ズに加え、筐体サイズやケースの仕様、熱処理などの希望に応える。特にウエハー検査や自動運転サーバーなどのような高い性能が求められる用途では、ラインアップが限られている。このような領域において、筐体やインターフェース、拡張化の対応やGPU搭載などハイエンドな仕様を実現する。また、マザーボードの仕入れ企業を限定せず多様な企業から仕入れていることで、顧客が使いたい拡張ボードに対応する。

——工場では様々なサービスに対応しています。

大竹 千葉県にある臨海工業では、コンピュータの組立およびサービスメニューに対応する。生産は最低ロット1台から行う。少量多品種になるが、全数検査を実施し、顧客からの高い評価につながっている。

サービスは、支給部品の組み込みやデバイス接続など、様々な工程もカスタマイズで受託し、検査まで行う。直近ではデバイスメーカーとの協業を構想している。共同で動作検証を実施するもので、保証面での安心に加え、処理性能が出ない場合も当社が中心になっ

——工場の特徴は。

大竹 工場は各国の安全規格を取得している。特に取得が困難な中国や北米向けの安全規格も創業時から認定取得に向けた取り組みを進め、23年および25年に取得した。半導体製造工場向け検査装置に最適化したコンピュータで海外安全規格を取得できることは、顧客のグローバル展開を支える大きな強みとなる。次はインド向けの安全規格取得を目指している。

(聞き手・日下千穂記者)